



九州地方整備局宮崎河川国道事務所が整備を進めている平成30・31年度広渡橋（A1・P1）耐震補強工事の現場見学会が11日、宮崎県日南市の現地で行われた。狭あいな桁下空間で橋脚の耐震補強に用いる仮締め切り工法のST-E-P工法を採用しており、掘削の様子や使用する設備を見て回った。写真。

見学会には宮崎河川国道事

務所を始め、宮崎県日南土木事務所や日南市の職員、施工を担当する龍南建設、STEPで製作した鋼製パネルを使用

川崎河川
橋脚補強
局宮崎
整備局
国道の

STEP工法を見学

事業全体のコスト低減

P工法を開発したオリエンタル白石が参加した。

STEP工法は、新技術情

報提供システム（NETIS）登録技術で、締切壁には工場周辺構造物への影響や水質汚濁などによる環境への影響を最小限に抑える。工場製作のため精度が高く、先端の止水コンクリートで確実に止水する。別の橋脚にも転用可能である。事業全体のコスト低減効果も比較工法の1つとして検討し

する。分割した高さ1・5mのパネルを現場で組み立て、所定の深度まで掘削と圧入を繰り返す。パネルの設置は締切内の掘削だけで済むため、締切内は混気ジェットポンプを使用し、掘削した土砂はデリバーリースを通して陸上

の刃先まで水深は3mある。沈砂池に排出する」と説明した。参加者からは、「今後

とがわかり、大変勉強になった。橋梁耐震補強設計では、比較工法の1つとして検討し

た。橋梁耐震補強設計では、比較工法の1つとして検討し

